令和元年度　大田区立大森第三中学校　自己評価　報告書

令和2年3月4日

○　本校の概要

◆教育目標　社会の一員としてたくましく生き抜く人間性豊かな生徒の育成をめざし、以下の目標を掲げる。
○人権尊重の精神と態度を育てる。 ○豊かな情操と健全な心身を育てる。 ○自主性を伸ばし創造性を育てる。 ○自ら進んで学ぶ態度を育てる
◆学校規模　生徒数510名、学級数14学級
◆本校特色 ○地域行事・ボランティア活動参加（新井宿福祉園運動交流会、ガーデンパーティ、日赤フェスタ、ユニバーサル駅伝伴走、新井宿児童館親子デー、自治会連合運動会、山王三・四丁目自治会子どもまつり・防災祭、入二小フェスタなど）
○生徒会や各種委員会を中心とした生徒主体の活動（生徒会朝礼、SNS学校ルール策定、いじめ撲滅運動、学校行事や学年行事での実行委員会組織による企画・運営など）
○スクールサポート三中（学校支援地域本部）を中心とした学校・地域協働体制による充実した教育活動の展開（図書室ボランティア、職業講話講師、職場体験受入先、土曜補習教室講師、部活動支援、英語検定、漢字検定試験監督、ガーデニング）

○　自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	目標に対する成果指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組及び今後の改善策	コメント
プラン1　未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にしなやかに対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とのコミュニケーション能力の育成等を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	3 3	4:教員や生徒への学校教育活動点検アンケートの設問の回答がそれぞれ80%以上。	4 新	未来社会を創造的に生きる子どもの育成においてICTの活用、人権教育の推進、体力向上に向けた取組では良い評価が出た。ICT活用に関しては、すべての教員が研修を経て機材を使いこなすようになった。また道徳の授業を通して人権教育を学年でどのように進行させるか相談しながら行うことができている。体力に関しても引き続き健康な体作りを推進していく。ALTを活用した授業や休み時間に行う英語カフェを設定し外国の方とのコミュニケーション能力の育成を図っている。2年生で行った都の調査で自分の考えを発表する機会がある授業では93．3%の生徒が機会があると答え、授業で学級の友達との間で話し合う活動をよく行っているでは90．6%の生徒がよく行っていると答えている。今後もよりコミュニケーションをとりながら問題解決が図れるような授業を実施する必要がある。	・自分の意見を言う授業が多いのはとてもいいことだと思います。 ・コミュニケーション能力は生きていく上でとても大事なことです。友達と話し合ったり発表をしたりする授業をとおして、コミュニケーション能力やいろいろな状況に対応する力を付けることは大切なので今後もそういった授業を積極的に取り入れてほしいと思います。 ・人権教育に関する項目が新たに加わったが、とても大切なことと考える。国籍や性などの多様性が社会に広がる中、これからを生きる子どもたちが時代に合った価値観を身に付けられるよう、学校教育の中でも多様な経験をしてほしい。
		論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おおたのものづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	3 新	3:教員や生徒への学校教育活動点検アンケートの設問の回答がそれぞれ60%以上。			
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4 3	2:教員や生徒への学校教育活動点検アンケートの設問の回答がそれぞれ60%未満			
		他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4 新				
		体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4 4	1:教員や生徒への学校教育活動点検アンケートの設問の回答がそれぞれ40%未満			
プラン2　学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4:対象となる全学級（全教員）で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	4 4	4:学習に積極的に取り組めている生徒の割合と学習効果測定の校内平均正答率が区内平均正答率を上回っている割合がそれぞれ80%以上	3 3	三者面談時に学習カルテを配付し、学習カウンセリングを実施した。区学習効果測定・国学力学習状況調査・教科評定及び数学チェックシート等を資料に個に応じたアドバイスを行っている。都学力向上調査において家庭学習が30分未満から0分の生徒は、23．5%まったくしていない生徒は12．1%となり、全体で35．6%の生徒が30分以下の状況である。もう一つの質問で塾や家庭教師の先生による学習時間を聞く問いでは受けていない生徒は38．9%となっている。宿題や提出物を必ず出し、忘れ物をしないよう気をつけている生徒は85%となっている。 学習効果測定の全校平均正答率は前年度より0．9%下降し60．9%となり、今年度の目標である60%をわずかながら上回った。今後も授業改善に向けた研修と家庭学習習慣定着に向けた取組を継続し、基礎・基本的学力のさらなる定着を図る。	・学習カルテはとてもわかりやすく助かりました。家庭学習は我が子もまったくしてくれないので家庭でも反省しなければと思いました。 ・家庭学習時間が30分以下の生徒が35.6%というのは改善が必要な数字と考える。保護者の協力を得てキャリア教育を充実させるなど「なりたい自分をもち」そのために勉強するという、長い目で自分の人生を主体的に考える力を育成できると良い。
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	4:学期に2～3回知らせた。 3:学期毎に知らせた。 2:年度間に1回は知らせた。 1:お知らせできなかった。	3 3	3:学習に積極的に取り組めている生徒の割合と学習効果測定の校内平均正答率が区内平均正答率を上回っている割合がそれぞれ60%以上			
		学習指導講師等による算数・数学・英語の補習を実施する。	4:対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 3:80%以上の教員が働きかけた。 2:60%以上の教員が働きかけた。 1:60%以下の教員が働きかけた。	4 3	2:学習に積極的に取り組めている生徒の割合と学習効果測定の校内平均正答率が区内平均正答率を上回っている割合がそれぞれ60%未満			
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	3 3	1:学習に積極的に取り組めている生徒の割合と学習効果測定の校内平均正答率が区内平均正答率を上回っている割合がそれぞれ40%未満			
		基礎基本的な学習内容を確実に定着させるため、精選した課題を与えて家庭学習時間の増加を促す。	4:家庭学習時間が30分未満である生徒の割合が10%未満。 3:家庭学習時間が30分未満である生徒の割合が10%以上15%未満。 2:家庭学習時間が30分未満である生徒の割合が15%以上20%未満。 1:家庭学習時間が30分未満である生徒の割合が20%以上。	2 2				
プラン3　豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をはぐくみます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	3 3	4:全国学力・学習状況調査生徒質問紙調査「自分にはよいところがある。」での肯定的な回答が80%以上	3 4	全国学力学習状況調査「自分にはよいところがある」との質問に肯定的に回答した割合は77．5%で、全国・都の平均と比して3．4%高く、昨年度以上に自尊感情を高める結果を得ることができた。さらに、学校生活調査とともにQ-U調査を分析することによって、諸問題を抱える生徒への個別の支援を行った。併せて、「学校の決まりを守っている」との質問に肯定的な回答をした生徒は98．3%で今年度も全国・都の平均を上回った。今後も集団の質を高める取組を継続していく。 不登校生徒（欠席数30日以上）出現率は1．96%で昨年度比－1．83%となり大きく改善した。都と比較しても大きく減少している。（都3．65%）不登校生徒を対象に、それぞれの状況に応じて登校できる日数が増えたかどうかを指標と定めた学校復帰率も20%となった。昨年度より不登校生徒が減少した。今後はより一層教育的予防に重点をおき、学校組織全体で不登校傾向を示す生徒への早期対応と相談体制の充実を図る。	・学校復帰率60%とありますが目標設定が高すぎると思います。不登校対策として大田区内ナンバーワンの取組と結果を出しています。そこを評価すべきではないでしょうか？ ・不登校生徒の減少に向けて、支援会議を実施し、対応策を話し合うことが今後も大事であると思います。 ・不登校や問題行動などに関わる子どもたちとの接触でいろいろ考えさせられることが多く親の責任を感じる。また、ケース会議を通じて先生方の熱心さと優しさは生徒にとって最大の宝で幸せと思います。 ・自己肯定力は入四の児童もとても低く課題となっていたそうですが、この一年でとても高くなったと校長先生がおっしゃっていました。そのまま三中へ進学してくれればもっと三中もよくなるのかなあと思いました。小・中・家庭・地域の協力が不可欠だと思います。不登校に関してはわざわざ先生が自宅に迎えに来ていただいたりと息子も私もとても先生に救われました。おかげで不登校にならずにすみました。本当にありがとうございました。 ・今の社会では子どもたちの受けるストレスも多様化していると思われます。今後も子どもたちの変化などの早期発見に努め、個々に応じた対応や支援をお願いしたいと思います。 ・教育研究を通じて、不登校生徒の出現率が改善したことは大きく評価したい。教職員の努力、地域の皆さんのご協力に感謝したい。この成果が未だに不登校が増加傾向にある大田区全体に広がるよう区や教育委員会に働きかけをお願いしたい。
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	4:学期に2～3回（年間6回）以上行った。 3:学期に1回（年間3回）以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	3 3	3:全国学力・学習状況調査生徒質問紙調査「自分にはよいところがある。」での肯定的な回答が60%以上			
		学校生活調査（メンタルヘルスチェック）の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4 4				
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4 4	2:全国学力・学習状況調査生徒質問紙調査「自分にはよいところがある。」での肯定的な回答が60%未満			
		問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。	4:必要な事案に対して必ず会議を実施し、組織的に対応した。 3:必要な事案に対しておおかた会議を実施した。 2:必要な事案に対してあまり会議を実施しなかった。 1:必要な事案に対してほとんど会議を実施せず、組織的な対応をしなかった。	4 4				
		不登校出現の未然防止を図るとともに、不登校問題に係る取組を実施し不登校傾向を示す生徒の学校復帰率を伸ばす。	4:不登校生徒の学校復帰率が60%以上。 3:不登校生徒の学校復帰率が40%以上。 2:不登校生徒の学校復帰率が20%以上。 1:不登校生徒の学校復帰率が20%未満。	2 2	1:全国学力・学習状況調査生徒質問紙調査「自分にはよいところがある。」での肯定的な回答が40%未満			
プラン4　体力の向上と健康の増進	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4 4	4:生徒アンケートの設問「継続的な運動を通して基礎体力が向上した」で肯定的な回答が80%以上	4 4	生徒の81．3%が「継続的な運動を通して基礎体力が向上した」と肯定的に回答した。昨年度より6ポイントアップとなった。中学校の教員特性として教科担任制ゆえに、運動会以外では全ての教員が体育的指導に携わることにつながっていない。今後は基本的生活習慣の定着促進とともに、補強トレーニングや一校一取組に全教員が関わることを通してさらなる健康・体力向上を図る。オリンピック・パラリンピック観戦し、運動への興味・関心を高めたり、日本の伝統文化について理解を深めていく。	・朝ご飯を食べてこない生徒が多く見られます。生徒・保護者に意識啓発の徹底を望みます。 ・運動、食育に関しても小さい時からの積み重ねが大事だと思います。 ・体力の向上も大切だが生活習慣についての意識啓発や食育の推進を続けていただいて心も体も健康で元気になってもらいたいと思います。東京でのオリンピック・パラリンピックなので、オリ・パラをとおしてスポーツに対しての意識を高めてほしい。 ・東京オリンピックパラリンピックを文化・歴史を学ぶ機会として活用してほしい。2020年度前期のNHK連続テレビ小説「エール」は「ｵﾘﾝﾋﾟｯｸ・ﾏｰﾁ」「栄冠は君に輝く」などを作曲した小関裕而先生がモデルであり、運動会の音楽に活用するなど考えられる。
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4 4	3:生徒アンケートの設問「継続的な運動を通して基礎体力が向上した」で肯定的な回答が60%以上			
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4 3	2:生徒アンケートの設問「継続的な運動を通して基礎体力が向上した」で肯定的な回答が60%未満 1:生徒アンケートの設問「継続的な運動を通して基礎体力が向上した」で肯定的な回答が40%未満			
プラン5　魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくります。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	3 4	4:生徒アンケートの設問「わかりやすい授業が多く満足している」及び「補習教室・英語カフェ等授業以外の学習環境が整えられている」で肯定的な回答がともに80%以上。	3 3	「わかりやすい授業が多く満足している」と肯定的回答した生徒は、82．5%となった。昨年度より4．7ポイントアップした。今後も生徒の学力向上を重要課題ととらえ、区学習効果測定及び国・都の学力調査の結果を分析し、各教科の年間指導計画・評価評定基準を厳しく見直すとともに、新しい学習指導要領実施に向け主体的、対話的、深い学びを目指したさらなる授業改善に務める。 学習環境の満足度83．6%、土曜補習教室への参加生徒数も毎回30名程の参加があった。今後も個に応じた学習環境が提供できるよう努めていく。	・充実した授業に向けての授業改善は必要だと思います。土曜補習教室への積極的な参加もあるようで、学習の中で分からない箇所の解決は生徒にとって自信にもつながるので勉強ができる環境の充実を期待いたします。 ・土曜補習、補習、やらなければいけない子どもに先生からおいでと声かけいただけると助かるなと思います。（もしもうやっているようでしたらすみません） ・先生方の日々の努力とても感謝いたします。今後も新しい学習指導要領実施に向け頑張っていただきたいです。 ・わかりやすい授業との肯定的評価が高まっているのは評価できる。ただ、授業公開だけでは、保護者が授業の様子を知るには限度があるため、おやじの集いなどを活用して、授業の工夫店などについて先生たちから生の声を聞ける機会があると良い。
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	4:学期に2～3回（年間6回）以上行った。 3:学期に1回（年間3回）以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	3 3	3:生徒アンケートの設問「わかりやすい授業が多く満足している」及び「補習教室・英語カフェ等授業以外の学習環境が整えられている」で肯定的な回答がともに60%以上			
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	3 3	2:生徒アンケートの設問「わかりやすい授業が多く満足している」及び「補習教室・英語カフェ等授業以外の学習環境が整えられている」で肯定的な回答がともに60%未満			
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	4:月1回以上行った。 3:学期に2～3回行った。 2:学期1回以上行った。 1:実施しなかった。	4 4	1:生徒アンケートの設問「わかりやすい授業が多く満足している」及び「補習教室・英語カフェ等授業以外の学習環境が整えられている」で肯定的な回答がともに40%未満			
プラン6　学校・家庭・地域が一体となってともに進める教育	学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4:月1回以上更新した。 3:学期に2～3回更新した。 2:学期1回以上更新した。 1:更新しなかった。	4 4	4:保護者へのアンケートの設問「保護者会、学年通信等で学校の様子がよくわかる。」での肯定的な回答が93%以上	4 4	学校支援地域本部と緊密な協力体制を構築し、今年度も年間をとおして放課後に2名および土曜日4名の学習指導講師を手配し、個の習熟の程度に応じた手厚い補習教室を実施することができ、土曜補習教室へののべ参加生徒数は180名程度である。今後も図書館ボランティア・園芸ボランティアは昨年度とほぼ同じで400名程となった。の充実も含め、地域力を生かした教育環境整備を図るとともに、PTAや地域教育連絡協議会・学校支援地域本部との連携をさらに深めていく。 「学校は教育活動の様子をよく伝えている。」と肯定的回答をした保護者は85%と昨年度とほぼ同様の結果となった。しかし、「学校からの配布物等が保護者にわたっている。」への肯定的的回答は昨年度比－5%となり、配布物に対する生徒への指導が必要な結果となった。家庭の意識変革を啓発するために、今後も生徒指導を通して学校からの情報が確実に家庭に届く方策を行っていく。	・今後も学校・家庭・地域との連携を深めることが大切だと思います。地域での各行事へのボランティア活動の参加も多くあり素晴らしいと思います。 ・町会等ボランティアではとても頼りになります。 ・ボランティアのお手紙はよく見ますが、だいたいが子どもが見せるのが遅く、〆切後だったりするなどまだまだ家庭での声かけが必要だと思いました。 ・学校・家庭・地域がそれぞれに役割を理解し連携して子どもたちを教育していけたらよいなと思います。地域のボランティア活動をとおして子どもたちに地域を知ってもたい地域の人たちに子どもたちを知ってもらうのは、とてもよいことだと思います。 ・生徒たちが地域イベントなどにボランティアで参加していることについて、ご協力いただいている教職員の皆さんに、地域の一員として感謝申しあげたい。また、不登校対策などにご協力いただいている皆さんにも、保護者代表として感謝申しあげたい。
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	4:毎回情報を提供した。 3:おおむね情報を提供した。 2:あまり情報を提供しなかった。 1:情報を提供しなかった。	4 4	3:保護者へのアンケートの設問「保護者会、学年通信等で学校の様子がよくわかる。」での肯定的な回答が60%以上			
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。	4:学期に2～3回行った。 3:学期1回以上行った 2:年1回以上行った。 1:実施しなかった。	4 4	2:保護者へのアンケートの設問「保護者会、学年通信等で学校の様子がよくわかる。」での肯定的な回答が60%未満			
		生徒がJRCだけでなく様々なボランティア活動に参加するよう促す。	4:のべ参加生徒数が495人以上であった。 3:のべ参加生徒数が400人以上495人未満であった。 2:のべ参加生徒数が300人以上400人未満であった。 1:のべ参加生徒数が300人未満であった。	3 4	1:保護者へのアンケートの設問「保護者会、学年通信等で学校の様子がよくわかる。」での肯定的な回答が40%未満			